

第 1 期中期目標期間の達成状況に関する評価結果

東京工業大学

平成 2 3 年 5 月

独立行政法人大学評価・学位授与機構

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

(参考)

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（4項目）のうち、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 教育の成果に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の成果に関する目標」の下に定められている具体的な目標（4項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「非常に優れている」、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」、1項目が「不十分」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「学業の成果」「進路・就職の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期計画で「各学科・専攻で、国際水準の卒業・修了資格について再検討し、各専攻の実情に応じて改善策を実施する」としていることについて、学士課程では日本技術者教育認定機構（JABEE）の基準を一つの判断基準とする再検討、大学院課程では修士課程学力試験等による国際水準を保証するプログラムの導入や修士・博士一貫国際大学院プログラムの実施、海外大学等との合同プログラムの導入等の多様な取組によって、教育の国際化や卒業生・修了生に対する企業からの高評価といった実績を上げていることは、優れていると判断される。

(改善を要する点)

- 中期計画で「既存の四大学連合複合領域コースをまとめて、理工学分野と医学、経済学、法学等の異なる分野を融合した、新たな学科及び専攻の設置等により、新たな知の分野の学力を備えた新しいカテゴリーの科学者・技術者を育成する方策を策定し、実施する」としていることについて、平成 20、21 年度において、平成 19 年度の新規参加学生数が大幅に減少していることについての原因の分析、対策の実施がなされているが、未だ、履修手続の改善、授業時間割・授業日程の統一等解決すべき課題を多く残していることから、中期計画は十分には実施されていないと判断される。

（特色ある点）

- 中期目標「科学技術倫理、広角視野を備えた人材」について、「Art at Tokyo Tech」並びに世界文明センターによる文明科目及び研究会等を実施し、幅広い教養を身に付けさせるとともに、芸術的感性の涵養を図っていることは、特色ある取組であると判断される。

（平成16～19年度の評価で指摘した「改善を要する点」の改善状況）

- 平成 16 ～ 19 年度の評価において、
中期計画で「既存の四大学連合複合領域コースをまとめて、理工学分野と医学、経済学、法学等の異なる分野を融合した、新たな学科及び専攻の設置等により、新たな知の分野の学力を備えた新しいカテゴリーの科学者・技術者を育成する方策を策定し、実施する」としていることについて、四大学連合複合領域コースは優れた取組であるが、平成 19 年度の新規参加学生数が大幅に減少していることについての原因の分析、対策の実施が十分になされていないことから、改善することが望まれる
と指摘したところである。
平成 20、21 年度においては、平成 19 年度以前の四大学連合複合領域コースの新規参加学生数の増減について、原因の分析、対策の実施がなされているが、未だ、履修手続の改善、授業時間割・授業日程の統一等解決すべき課題を多く残していることから、当該中期計画に照らして、改善されていないと判断された。

② 教育内容等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育内容等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5 項目）のうち、2 項目が「非常に優れている」、3 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目が「非常に優れている」、3 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・

研究科等の現況分析における関連項目「教育内容」「教育方法」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期目標「コミュニケーション教育」について、学部及び大学院における英語教育の目標を英語による十分なコミュニケーション力を身に付けさせることとし、TOEICの点数を用いてクラス編成から到達目標の設定までを明確にすることにより、多くの学習機会を用意し成果を上げていることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期目標「学生の多様化に対応する教育」について、イノベーションマネジメント研究科において、学生に先端技術をビジネスに展開できる実践力を身に付けさせることを目指し、博士学位と修士学位を同時に取得可能としたデュアルディグリープログラムを実施していることは、特色ある取組であると判断される。

③ 教育の実施体制等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「教育の実施体制等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（6 項目）のうち、2 項目が「非常に優れている」、4 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、2 項目が「非常に優れている」、4 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「教育の実施体制」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期目標で「教育推進室を中心として、全学の教育戦略を策定する」としていることについて、当該大学が責任を持って一貫した方針の下で教育を実施するため、学長直属の教育推進室を設置し、教育理念や将来構想、全学的指針に関する事項、教育課程や授業科目の改廃、教育方法等の具体的事項の策定を学長のリーダーシップの下で、検討・実施していることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期目標「教育の情報基盤を整備する」について、学長の戦略的マネジメント組織の一つである情報基盤統括室の管理の下で、すべてのキャンパスを包括して研究・教育の情報基盤がハード、ソフト両面で整備されていることは、特色ある取組であると判断される。

④ 学生への支援に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「学生への支援に関する目標」の下に定められている具体的な目標（2 項目）のうち、1 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「良好」、1 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「学生の意見を大学運営に適切に反映させる方策を教育推進室が中心となって検討し、実施する」について、教育改善や施設作りにおいて、学生の意見を取り入れ、継続的に改善を図るために、平成 16 年度から継続して全学生を対象に「学勢調査」を実施し、その結果を活用していることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期目標「学習支援及びキャンパスライフに関わるあらゆる支援を総合的・体系的に行う体制を構築する」について、学生同士のピアサポート制度や留学生へのコンサルティングサービス等の相談・助言体制を整備していることは、特色ある取組であると判断される。

（Ⅱ）研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2 項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

(参考)

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（2 項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 研究水準及び研究の成果等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究水準及び研究の成果等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5 項目）のうち、1 項目が「非常に優れている」、1 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「非常に優れている」、1 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果に加え、学部・研究科等の現況分析における関連項目「研究活動の状況」「研究成果の状況」の結果も勘案して、総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

(優れた点)

- 中期計画で「共同研究・委託研究の契約、共同利用施設の運営、リエゾン活動、技術移転、ベンチャー起業支援等の支援体制の強化を図る」としていることについて、産学連携推進本部を設置し、産学連携に係るすべての業務を総括的に処理する体制を整備したことにより、受託研究・委託研究や特許料収入等の実績が増加したことは、優れていると判断される。
- 中期計画「重点的に開拓すべき未踏分野の研究、萌芽的研究、解決困難とされている重要研究を特定し、それらの研究を積極的に遂行できる方策を策定し、実施する」について、平成 20、21 年度にグローバル COE プログラムに 4 件採択され、学内措置による COE センターで各分野の研究の推進を図り、また、重要研究の積極的な遂行のための方策として、環境エネルギー機構を設置し、環境・エネルギー等の異分野間の融合的な研究を進めていることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期計画で「進化型研究組織への変革を図るためのロードマップを、各部局等が実情に応じて策定する」としていることについて、学長直属の研究戦略室及び産学連携推進本部を設置し、全学的立場で研究ポリシーや産学連携ビジョン、知的財産ポリシーの策定から実施に至る戦略体制を整備したことにより、これを踏まえて各部局で目標達成のためのロードマップを作成して研究を推進していることは、特色ある取組であると判断される。

(顕著な変化が認められる点)

- 中期計画「重点的に開拓すべき未踏分野の研究、萌芽的研究、解決困難とされている重要研究を特定し、それらの研究を積極的に遂行できる方策を策定し、実施する」について、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21

年度の実施状況においては、「良好」となった。（「優れた点」参照）

② 研究実施体制等の整備に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

（判断理由） 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「研究実施体制等の整備に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5 項目）のうち、1 項目が「非常に優れている」、1 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「非常に優れている」、1 項目が「良好」、3 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画「国際水準の研究や境界・学際領域の最先端研究を重点的かつ効率的に推進するための研究プロジェクトを専攻・研究科の枠を越えて容易に組織できるシステムを策定し、実施する」について、平成 17 年度に統合研究院を設置したこと、及び部局・専攻等の既存の教育研究組織の枠組みを超えた研究推進のためのバーチャルな横断的組織としてイノベーション研究推進体を設置したことは、質の高い研究活動に結実している点で、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期計画「研究面における社会との連携を組織的・戦略的に推進するために「産学連携推進本部」を中心として、COE とともに、その他の社会ニーズのあるプロジェクト、外部資金を獲得できるプロジェクトを強力に推進する」について、研究面における社会との連携を組織的・戦略的に推進するために産学連携推進本部を中心として活発な活動を行っているが、その活動を国際的にするために国際的産学官連携方針を制定し、当該本部の体制を整備したことにより、米国バテル記念研究所との連携、米国シリコンバレーの連絡事務所設置等という具体的な成果を上げていることは、特色ある取組であると判断される。

（Ⅲ）その他の目標

（１）社会との連携、国際交流等に関する目標

１．評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（2項目）のすべてが「良好」であることから判断した。

(参考)

平成 16 ～ 19 年度の評価結果は以下のとおりであった。

【評価結果】 中期目標の達成状況がおおむね良好である

(判断理由) 「社会との連携、国際交流等に関する目標」に係る中期目標（2項目）のうち、1項目が「良好」、1項目が「おおむね良好」であり、これらの結果を総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

① 社会との連携、国際交流等に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である。

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「社会との連携、国際交流等に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5項目）のうち、1項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況が良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1項目が「非常に優れている」、2項目が「良好」、2項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

<特記すべき点>

(優れた点)

- 中期目標「アジア地域との国際交流を強化拡大する」について、平成 17 年度国際室に海外拠点運営室を設置してアジア地域に重点を置いて海外オフィスの開設に努め、タイ、フィリピン、北京に海外オフィスを開設したことにより、ここを拠点に連携大学院コースの開設（タイ）、衛星及びインターネットを利用した講義の配信（タイ）、サマープログラムの実施（フィリピン）、大学院合同プログラムの実施（北京）等の活動の展開や活発な留学生獲得活動及び面接につながっていることは、優れていると判断される。

(特色ある点)

- 中期目標「教育面では『社会人教育、産官学人事交流、学界活動等を通して、地域社会も含めて世界に情報発信・啓蒙活動の促進を行う』」について、地元の大田区産業振興協会と協力して「東京工業大学技術交流セミナー」を継続して実施し、地域産業との連携・交流による社会人教育の機会を提供している活動は、地域との連携や貢献という点で、特色ある取組であると判断される。

② 附属図書館に関する目標

【評価結果】 中期目標の達成状況が良好である

(判断理由) 平成 16 ～ 19 年度の評価結果は「附属図書館に関する目標」の下に定められている具体的な目標（5 項目）のうち、1 項目が「非常に優れている」、4 項目が「おおむね良好」であったことから、「中期目標の達成状況がおおむね良好である」であった。

平成 20、21 年度の達成状況を踏まえた結果は、1 項目が「非常に優れている」、2 項目が「良好」、2 項目が「おおむね良好」とし、これらの結果を総合的に判断した。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

- 中期計画で「学内外の学術情報流通基盤機能の整備・充実・強化を図る」としていることについて、学内の学術研究論文等の一元的な蓄積・管理・発信を目的として T2R2 システム等を整備、運用し、教員自身による学術研究論文等のデータ登録から検索、利活用までを容易なシステムとしていることは、各種サービスにおける合理化、効率化等が図られ、学術情報の発信や活用を行っているという点で、優れていると判断される。
- 中期計画「主要な理工系電子ジャーナル及び文献データベースを整備し、併せて人文・社会科学系分野の強化を図る」について、平成 20、21 年度の実施状況において、(1)理工系の電子ジャーナル約 7,800 タイトルの大部分が創刊号から利用可能になったこと、(2)電子ジャーナル管理ツールの導入によりアクセス時間が短縮されるようになったこと、および、(3)人文・社会科学系の電子ジャーナルパッケージを導入したことは、優れていると判断される。
- 中期計画「図書館、学術国際情報センター、フロンティア創造共同研究センター、地球史資料館、博物館（現百年記念館展示部門）を統合し、各組織の機能向上、各組織が連携した研究・学習・社会貢献のための新たな情報提供及びサービスの拡大を目指した複合型施設の設置を検討し、具体的方策を策定する」について、(1)平成 21 年度に「アーカイブ推進機構」を設置したこと。また、(2)大岡山キャンパスにおいて博物館機能を集約し、その隣接地に新図書館の建設を進めていることに加え、(3)東京工業大学リサーチリポジトリについて、新たに特許情報と学位論文情報を加えるとともに、講義情報を発信する東京工業大学オープンコースウェアとリンクさせ、より効果的に情報発信をしたこと。また、(4)著作権の許諾要件の確認をシステム側で行うこととして利便性を高めたほか、(5)科学研究費申請書に加えて、研究実績報告書及び研究成果発表報告書の生成を可能とすることで、登録データ活用の幅を広げ、(6)国内の学術機関リポジトリポータル全登録件数の 1/5 を占めるなど（登録数：平成 20 年度末 15 万 5,171 件、平成 21 年度末 17 万 8,739 件）、学術機関リポジトリに関して他大学の

モデル的位置付けとなっていることは、優れていると判断される。

（特色ある点）

- 中期目標「先導的電子図書館システムを充実させ、学内及び国内外に対する双方向の情報流通サービスの拡大及び効率化を図る」について、「東京工業大学キャンパス共通認証・認可システム」とリンクさせ、適切な個人情報の管理、情報セキュリティポリシーの遵守、学内資源の効率的利用を行っていることは、特色ある取組であると判断される。

（顕著な変化が認められる点）

- 中期計画「主要な理工系電子ジャーナル及び文献データベースを整備し、併せて人文・社会科学系分野の強化を図る」について、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては「良好」となった。（「優れた点」参照）
- 中期計画「図書館、学術国際情報センター、フロンティア創造共同研究センター、地球史資料館、博物館（現百年記念館展示部門）を統合し、各組織の機能向上、各組織が連携した研究・学習・社会貢献のための新たな情報提供及びサービスの拡大を目指した複合型施設の設置を検討し、具体的方策を策定する」について、平成 16 ～ 19 年度の評価においては、「おおむね良好」であったが、平成 20、21 年度の実施状況においては、「良好」となった。（「優れた点」参照）